

ベンチマナー等について

ミニバスケットボール競技規則の【まえがき】に「競技が友情、ほほえみ、フェアプレイの精神によっておこなわれること」とあります。また、「ゲームで勝敗を競うのは、子どもたちにとって非常に魅力的なことではありますが、何が何でも勝つという考え方を子どもたちに教え込んではいけないのです。……そして、必要な厳格さと寛大さを併せ持ち、広い視野にたつて規則を理解し、子どもたちが何を身につけるべきかを考えてほしい」とあります。

わたしたち指導者は、このことを肝に銘じ、子どもたちをよりよく成長させるために、ミニバスケットボールの指導を行わなければなりません。そのために、ゲーム中でのベンチマナー等について下記の内容を十分に理解し、ご協力をよろしくお願い致します。

1. コーチ等のベンチマナーについて

次のようなことを行ってはいけません。

- (1) 審判、TOや相手に対して、不作法に話しかけたり、プレイに対して「ファウル!」「歩いた!」等、大声を出したりして、審判の判定に過剰なアピールをすること。また、相手のフリースローに際し、集中力を阻害すること。
- (2) テーブルや椅子をたたいたり、蹴ったりすること。
- (3) ゲーム中にコートの中に入ること。(選手の負傷等、特別な場合を除く)
- (4) チーム・ベンチ・エリアを離れて、指示を出すこと。
- (5) ベンチの内外を問わず、選手に対して暴力的な行為を行うこと。
- (6) ベンチで、ビデオ・写真撮影、携帯電話を使用すること。
- (7) 応援席や観客席で、鳴物等を使用すること。(うちわを叩いて応援することも含みます) このような行為に対して、審判とゲーム主任は厳格に対処します。また内容によっては、大会本部としても注意や警告に留まらず、出場停止等の重い処分をすることがあります。

2. 審判・テーブルオフィシャルズへの支援について

審判やテーブルオフィシャルズもゲームを行う大切な一員です。ゲーム中に判定や処置などにミスが起きることが考えられます。しかし、ベンチや観衆はそれを非難することなく、同じミニバスケットボールを育てる仲間として寛容に対処すべきだと考えます。ご協力をお願いします。しかし、審判やテーブルオフィシャルズは、その寛容さに甘んじることなく、選手やベンチがその力を最大限に発揮できるよう、常に普段から技術の向上に向けて努力すべきことは言うまでもありません。

3. 指導者の暴力的行為について

ゲーム会場だけでなく、そのチームがゲーム中か否かを問わず、選手に対して指導者が暴力的行為を行うことは、絶対にあってはならないことです。これは、単に自チーム内においての問題ではなく、児童の人権擁護と健全な育成・指導の点から、ミニバスケットボール全体に対して大きな誤解を招く恐れがあるからです。暴力的行為が認められた場合、大会本部はそのチームに対して厳格な処置を行います。

4. 保護者の応援について

保護者の応援は、ミニバスケットボールの性格上、必要不可欠なものといえます。しかし、興奮のあまり、時に自チームの応援に留まらず、相手チームの中傷や審判への罵声が聞かれることもあります。このベンチ外の応援については、ルール上何ら規定はありませんが、ミニバスケットボールにおいては、子どもたちとの関わりにおいて、それを容認することはできません。また、チームの品位や指導者の資質まで疑われることにもなります。このような点から、各チームの指導者は、ベンチ外の応援についても十分にご配慮をお願いいたします。